

敷島北小学校 学校関係者評価書

平成30年2月16日(金)

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：平成30年2月16日(金) 午後2時40分～

会場：敷島北小学校会議室

学校関係者評価委員：山本重高 佐藤康樹 石橋浩二 中込潤一

亀田 和範 山崎 裕子

学校側：校長：石川 健 教頭：松井 渉 教務主任：飯塚 正規

I 学校側から提案された内容

学校側から12月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

①「自己評価」(教職員アンケート)結果から

I 学校教育目標・学校経営について

全ての項目において「A そう思う」の評価が一番多く、学校経営が円滑に行われているといえる。特に学校経営の根幹である教育目標については、全員が同じ認識をもって日々の教育活動に取り組んでいる。ただし、P→D→C→Aサイクル「Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価・検証)、Action(改善)」については、意義とその重要性を確認し、さらに意識的・計画的に実践していくことが必要である。

II 学校運営について

全体的に良好に推移している。危機管理マニュアルに関しては、今年度も数回、地震や火災を想定した避難訓練を実施し、児童とともに職員も実践的な訓練を行うことで体験的に緊急時の対応のあり方を掴むとともに、マニュアルについても理解を深めてきた。万が一の場面が発生したときには的確な行動がとれるようにマニュアルの理解をいっそう努めていく必要がある。

III 学習指導について

学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら個に配慮した授業を行っている様子がうかがえる。評価を意識した授業や、質問や発言が出やすい授業づくりについては、さらなる改善が必要であると判断している傾向がある。外国語活動の指導については、教科化の実施が近づいてきており、さらに研修を深めていくことが必要である。

IV 生徒指導について

全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから数年が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。児童への指導については、問題行動の早期発見・早期対応を心がけているが、児童の心に寄り添い、良き相談者たるべき姿勢を持ち続けていきたい。

V 地域との連携について

本校のPTA活動や地域との連携については、肯定的な評価が多く、学校側から情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができていているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただいて貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討し、教材開発をすることを日頃から心がけていきたい。市全体と比較して肯定的な回答が多いものの、保護者からの要望等の情報収集については、これからも受け身にならないような工夫が必要である。

VI 学校の特色に関して

あいさつや読書活動については、児童会や委員会が中心となり取り組みを進めて定着してきているが、教職員自身の指導という視点からみると、その取り組み方にはまだ向上の余地があるという結果である。体力向上への取り組みは、業前活動で行ったたてわり遊びやなわとびなどの活動が全校に広がり、主体的に体を動かしている児童が多く見られた。

②「児童アンケート結果（全体の結果）」から

学校〔1〕

学校が「とても楽しい」という児童は昨年度よりも若干減少したものの、9割以上の児童は「楽しい」としている。しかし、否定的な回答をしている児童が市全体や昨年度の本校の結果よりも若干増加している。

友達・対人関係〔2～4〕

仲の良い友達が「たくさんいる」という児童は昨年度より若干減少したものの、9割以上の児童は肯定的な回答をしている相談できる友達が「いる」も含めた肯定的な回答は8割を超え、昨年度より若干増加している。人を進んで助けることに肯定的な回答は9割近くにのぼっている。

授業・学習理解〔5～9・11〕

9割以上の児童が「学校の授業は楽しい」と回答し、「先生はよく勉強を教えてくれる」に肯定的な回答は97%にのぼっている。そのことに比例し、約95%の児童が国語や算数の授業の内容がわかっていると回答している。わからないことがあったときに先生に聞くのは7割強の児童で、聞けていない児童も3割近くいる。授業中に質問や意見を言うとする児童は6割を超えているが、昨年度より若干減少し、まだ発言することに対して消極的な面がみられる。

先生〔6・9・10〕

「先生はよく勉強を教えてくれる」に対して肯定的な児童が97%、「困ったことがあったら相談できる先生がいる」という児童は昨年度より若干減少したが、9割を超えており、教員に対して好意的で良い師弟関係ができているといえる。だが、それと比較すると勉強でわからないことを先生に聞く児童は少ないといえる。

宿題・家庭学習〔12・13〕

9割の児童は宿題を忘れずにしていると答えている。学年の目標時間の勉強については、いつもしているのは4割強であるものの昨年度より若干増加している。「だいたいしている」まで加えた肯定的な児童は8割になる。しかし、宿題と家庭学習について、ごく少数ではあるが「していない」と回答している児童もいる。

家庭〔14・15・17〕

家の人と学校での様子を話している児童は8割を超えており、多くの家庭では日常的に学校の様子について保護者とやりとりをしている様子がうかがえる。就寝時間については市全体の分布傾向とほぼ同じで、8割近くの児童は午後10時までには就寝しているものの、午前0時近くまで起きている児童も見受けられ、午前1時過ぎとする児童もいる。朝食をいつも食べている児童は昨年度よりも若干増加し、「だいたい食べている」までを含めると95%を超えるが、食べていない児童もみられる。

地域〔16・18〕

地域の行事への参加については、昨年度と比較して、「だいたい参加している」という児童は若干増加しているが、「よく参加している」が若干減少し、「参加していない」が若干増加している。地域の人とのあいさつの様子は、「よくしている」という児童が昨年度より若干増加し、9割以上が肯定的に回答している。

読書〔19・25〕

家や図書館での1日あたりの読書時間は、30分から1時間未満という児童が最も多かった。2時間以上とする児童が昨年度よりも増加し、「全くしない」児童も増加している。本を読むことについて8割以上の児童は好意的な回答をしている。

夢・希望〔20〕

将来の夢や希望を「しっかり持っている」「持っている」を合わせると、昨年度と同様8割以上である。

きまり・約束〔21〕

学校のきまりや約束ごとを守ることについて、9割以上が肯定的な回答をしており、「よく守っている」は昨年度同様に市全体を上回っている。

勤労〔22・23〕

清掃活動に「しっかり取り組んでいる」「取り組んでいる」とする児童が95%になり、全校的に、きちんとした取り組みの様子がうかがえる。委員会活動については、取り組んでいないという回答は無く、役割をきちんと果たそうとしている高学年の姿を見て取れる。

聞く・話す〔26・27〕

「先生や友だちの話をしっかり聞く」については、「よくできている」は昨年度より若干減少したものの、肯定的な回答の割合は95%以上になっている。「自分の考えを話すこと」については、「しっかり話している」という児童が昨年度より若干増加しているが、話を聞くことよりも消極的な傾向がみられる。

③「保護者アンケート結果」から

・学校全般〔1・3・4・5〕

児童にとって学校は楽しいところだとする肯定的な回答が9割を超えているが昨年度よりも若干減少している。学校からの情報で様子を知ることができるというのが9割以上、授業参観などが様子を知る機会になっているとするのが約95%になっており、保護者が学校の様子を知ることができている様子がうかがえる。保護者・地域の声に耳を傾けていることに肯定的な回答は85%ほどで、市全体よりも高くなっている。

友達〔2・14〕

9割以上の保護者は子どもの仲の良い友達を知っているとしているものの、相談できる友達がいるとするのは約65%であり、昨年度や市全体と同様である。

学校の指導〔6・16・23〕

子どもの間違った行動への指導は8割、挨拶の指導は7割、学校行事や児童会行事の取り組みについては9割以上が肯定的な回答であり、市全体と同様の傾向を示している。

家庭でのしつけ・指導〔7・17・18・25〕

しつけによく力を入れているとする保護者は2割弱であるが、市全体を上回っている。しかし、あまり力をいれていないとする回答も市全体よりも多い。家庭での互いの挨拶を積極的にしている家庭は昨年度を上回っている。地域の人と出会ったときの挨拶をするようによく言っているのは、昨年度とほぼ同じ割合であるが市全体を上回っている。子どもが家で学校の話をよくする割合は昨年度より減少しているが、あまりしないという家庭も減少している。

学習理解・授業〔8・11〕

授業の内容の理解については8割強が肯定的、学校の授業への取り組みについては9割が肯定的で市全体とほぼ同じであり、ともに積極的な肯定が昨年よりも増えている。

睡眠・朝食〔9・10〕

子どもの平均睡眠時間は8時間以上とする保護者が9割を超え、昨年度よりも若干増加している。朝食については、95%以上が食べているとしており、「いつも」食べているという回答は若干増加している。

宿題・家庭学習・読書〔12・13・22・24〕

宿題への取り組みは約95%が肯定的に回答している。家庭での自主学習については、肯定的な回答

が5割となり、昨年度よりも減少している。家での読書については、10分未満が減少し、1時間以上が増加しているが増える一方、全くしないのも一定数みられる。子どもが本を読むことが好きだと思う保護者は若干増加している。

対先生〔15〕

子どものことで相談できる先生がいるという保護者は7割弱でほぼ昨年度同様であり、「いない」という否定的な回答は減少している。

地域〔19〕

地域の行事に子どもが参加していることに約75%の保護者が肯定的であり、昨年度と同様の傾向をしめしている。

PTA〔20〕

8割以上の保護者がPTA活動の参加に肯定的であり昨年度や市全体とほぼ同じである。

夢・希望〔21〕

保護者の8割以上は子どもが将来の夢や希望をもっているととらえている。

④アンケートの相関から

教職員—保護者

「保護者・地域の声に耳を傾けている」という項目については、教職員も保護者も肯定的であるが、肯定のうち「とても思う」という評価は教職員（73%）と保護者（約15%）と隔たりがある。「保護者のPTA活動への参加」については、教職員の全員が肯定で、8割は「よく参加している」としているのに対し、「よく参加している」も25%となっている。教職員が保護者の活動を総括的に見るのに対し、保護者は個の視点で判断しているという違いにもよると思われる。

教職員—児童—保護者

学習指導について、児童の8割近くが「よく教えてくれる」と評価しているのに対し、教職員は「学びの意欲を喚起する授業を行っている」について「そう思う」とするのが6割強、保護者では「熱心に授業に取り組んでいる」について「とてもそう思う」が2割強となっており、相対的に保護者の評価がやや低い様子がみられる。また、規範意識の高揚についても、児童と教職員の約6割が「きまりや約束を守るようによく指導している」としているのに対し、保護者で「よく指導している」と回答したのは15%となっている。

児童—保護者

児童の友達関係について、「困ったときに相談できる友達」が「いる」と8割以上の児童が答えているのに対し、保護者が「いる」としたのは6割強で、18%の保護者は「わからない」との回答であり、友達の把握が難しい様子がうかがえる。宿題について、「よくしている」としたのは児童も保護者もほぼ同率（児童63%、保護者61%）である一方、「している」としたのは、児童が28%、保護者が33%とやや隔たりがあり、保護者は子どもが宿題をしていると思っているが、実はあまりやっていない児童もいるということがいえる。

(2) 今後の方針

① 「自己評価」（教職員アンケート）結果から

- ・ 全学級が単級であり、学級担任の役割や校務分掌の負担が多くなるとともに、他の教職員との連携や意見交換等がなかなか持ちにくい状況もある。児童の指導に担任だけに関わるのではなく、全教職員で敷島北小学校の子どもたちを育てていることを、教職員一人一人が常に意識し、報告、連絡、相談、確認をお互いに率先して行いながら、共通理解のもとで教職員集団として児童の指導にあたり、よりよい学校運営をめざしていく。

- ・ 児童の行動や状況で問題点や気がかりなこと等については、定例の生徒指導校内委員会で共有化を図っている。今後も問題行動の早期発見に努めることは当然であるが、その対応には全教職員が同一の方向性を持ち、学校として一貫性をもった指導を行っていく。

② 「児童アンケート」結果から

- ・ 全ての項目で肯定的な回答をしている児童が多いが、項目によっては否定的な回答をしている児童が少なからずいる。そうした状況について全教職員が共通認識をもち、児童一人一人に、より一層の目配りや心配りをしながら、情報を共有しつつ、児童の個に応じた指導を心がけて、全校体制で指導にあたっていきたい。
- ・ 多くの児童が、学校が楽しく、勉強もよく教えてくれると評価していることを糧にして、そうした気持ちに答えるべく、児童がより良い学びができる授業や、毎日が充実した学校づくりをしていくために、指導の工夫や改善を積み重ねていくとともに、児童が喜びを感じ取れるような諸活動の運営を進めていきたい。

③ 「保護者アンケート」結果から

- ・ 多くの保護者に、子どもにとって学校は楽しいところであるととらえていただいております。そうした思いをこれからも持ち続けてもらえるように、保護者、地域住民、教職員が一体となり、より充実した教育活動を行っていくために、常にアンテナを高くし、開かれた学校づくりを進めていきたい。
- ・ 保護者が、学校での学習指導や保護者との連携に概ね満足はしているものの、十分な満足までには至っていないという結果を念頭に置き、現状で良しとせず、日頃の1時間1時間の授業を大切に児童の学力の向上を図るとともに、保護者との連絡を密にして期待や希望を酌みつつ、積極的に家庭に学習の様子を伝え、理解を深めてもらうように努めていきたい。
- ・ 人数は少ないものの、保護者アンケートで「D」と回答された項目がある。また、肯定的であっても、全体的に「B」の評価が多くなっている。これは、保護者がより向上することを期待していることの表われととらえることができるが、保護者の期待に十分に答えられていないこともあるといえるだろう。そうした背景を考察して保護者の気持ちを理解しつつ、ともに児童の健やかな成長に寄与できるよう、より一層連携を密にして、改善を図っていきたい。

II 協議された主な内容 (Q…評価委員 A…学校側)

学校関係者評価委員会に先立ち、5校時間帯に授業参観の場を設け、学校の現状、児童の様子などを観察していただいた。

① 学習面のこと

- (Q) 授業参観をした時に、コの字型で学習していたクラスがあったがどんな意図があるのか。
- (A) 低学年や中学年であったと思うが、対面式にすることで意見の交流し易くすることをねらっている。
- (Q) コミュニケーション能力を高めることが求められるが、学校ではどんな取り組みをしているのか。
- (A) 朝の会などで各クラス1分間スピーチなどを取り入れ、発言する機会を設けている。
- (Q) 発表時にわかる子が静かに手を挙げていた。もっと元気があっても良いのでは？
- (A) 低学年時には、ハツラツと発表しがちだが、高学年になると静かに答える傾向がある。
- (Q) 自己肯定感が低いという説明があったが、具体的にどんなことか。
- (A) これは、6年生の全国学力・学習状況調査からの結果であり、学習・生活面ともに自信を持たせるような取り組みが必要になる。教師の授業改善及びスピーチなど表現力を付けるような取り組みを継続していく。

② 児童の友達関係・人間関係・生活面について

- (Q) 「あいさつ」は大事だが、子どもは自分ではよくやっているととらえるが実態はどうなのか。
- (A) 「おはようございます。」と言って登校班全体などに声かけをするとあまり返答がないが、個人名を言ってあげた時の声かけには返ってくるが多い。ハイタッチなどをしてコミュニケーションをとることが目的なので、引き続き地域からの指導・援助もお願いしたい。

③ 地域との関わりについて

- (Q) おやじの会・母親の会・PTAなど地域の土壌があるこの学校をどうみるのか。
- (A) 本校の在籍・出身者に、青少年育成リーダーが多いことに驚く。敷島の他校に比べて地域で活躍する児童が多いことは財産である。リーダー研修会等もっと積極的に活かしたい。

④ 関係者評価委員さんから一言

- ・各教室を参観した感想は、40年経過し校舎内が古く、校舎内が全体的に暗い感じがした。大規模改修工事などの予定はあるのか気になる。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 1 教職員が自信をもって教育活動に取り組むことが、児童の自己肯定感を高め、積極性につながる。自己評価で「A評価」が多くなるよう努力してほしい。
- 2 単級で児童数が減っているが、地域の特色を活かして、学習したことが分かる楽しい授業、クラスの中でお互いを認め合い、お互いを大切にできるクラスづくりがどの学年でも行えるようになってほしい。

II 特徴

「学校が楽しい」と答えている割合が減っていることが気にかかる。この原因は何か分析する必要がある。一人一人の分析を細かくつかむ必要がある。児童理解をするには、授業中だけでなく、休み時間や放課後の時間などの児童の生活の様子など担任及び学校全体でアンテナを高く情報交換をするなどを行い、心をつかむ努力をしていく。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇ 「困ったことがあった時に相談できる先生がいますか。」のAの割合は減り、Cの割合が増えている傾向がある。先生方には児童一人一人への関わりをさらに深くお願いしたい。
- 学校としては、今後も一人一人に声かけをしていく。単級のマイナス面として、担任との折り合いが悪くなると児童との溝が生まれやすい。教育のプロとして、様々な子どもを受容する柔軟性を教師が持たなければならない。子どもが楽しいと感じるのには、先生との関わりも楽しいは比例する。
- ただし、担任だけが抱え込まないように「報・連・相」の意識とチーム敷北として管理職がまとめていく必要である。
- ◇ 教職員間の共通理解を図り、短期的、長期的両方の視野をもち、さらに充実した指導・支援体制を築いていくことが望まれる。

※特記事項 なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 亀田 和範